

(資料)

## REFRANERO ESPAÑOL (39)

### スペインの諺辞典

Bernardo Villasaniz\*(ed.)

新井 藍子\*\*

#### 1426. Quien miel se hace, moscas le comen.

蜜のように甘いと ハエどもに食べられてしまう

- 他者の言いなり放題になっていると、容易く利用されてしまう。(パロス)
- 異表現では“Haceos miel y comeos han las moscas. 蜜のように甘いと、ハエどもが食べてしまう”(筆者の諺辞典, 諺 640 を参照)、“El que se hace de miel le pican las moscas. 蜜でできていると、ハエどもにたかられる”がある、また同義では、“Haceos oveja y comeros han lobos. 羊のようにおとなしいと、狼どもが平らげる”、“Mete el mendigo en tu pajero y hacérsete ha heredero. 庇を貸して母屋を取られる”(筆者の諺辞典, 諺 931 を参照)、“El pan de los bobos se gasta primero que el de los otros. 愚か者のパンは、他の者のパンより最初になくなる”(同諺辞典, 諺 1252 を参照)、“Por la caridad entra la peste. 同情から疫病神が入ってくる”(同諺辞典, 諺 1356 を参照)、“De fuera vendrá quien de casa nos echará. 外から来た者が、われわれを家から追い出す”などのことわざがある。
- 日本の同義のことわざには“甘い物に蟻がつく”、“鉦を貸して山を伐られる”などがある。

\* Facultad de Humanidades. Universidad de Fukuoka.

\*\* Profesora de español en la Universidad de Fukuoka (Facultad de Humanidades).

**1427. Quien mierda echa en la colada, mierda saca.**

けもの道で糞たれる奴は 糞が手につく

- 卑しい行いをする者は、いい結果を期待することは決してできない。(パロス)
- 類義の諺には “Es un loco quien su mal achaca a otro. 身から出た錆” (筆者の諺辞典, 諺 593 を参照), “No hace poco quien su mal echa a otro. 自業自得” (同諺 593 を参照), “El mal que de tu boca sale, en tu seno se cae. 天に唾す” (同諺辞典, 諺 810 を参照), “El que al cielo escupe, en la cara le cae. 天に向かって唾を吐くと、顔にふりかかる” (同諺 810 を参照), “Quien piedra al alto echa, cáele en la cabeza. 高く石を投げれば頭の上に落ちてくる” (同諺辞典, 諺 1440 を参照) などがある。

**1428. Quien miró el premio de lejos, no hizo casa con azulejos.**

遠くから儲け話を眺めていると

タイル張りの家を持てぬ

- 何かに取りかかることや儲けることに障害ばかりを見つかる人を咎めている。(コレアス) 仕事をするのが難儀だと思っているような人は、決して金持ちにはなれない。(パロス)
- 類義の諺には “Quien mucho mira los fines y medios, no acomete grandes hechos. 目標や手段ばかりを深く考えていると、大きな仕事にとりかかれぬ” がある。
- あれこれと大変なことばかりを思い患って最初の一步を踏みだせない者をたとえて言う。いつの時代にも、どこにでもこういう人たちがいる。現代ならさしずめひきこもりの若者たちであろう。“石橋を叩いて渡る” ならば、まだいいが、スペインのことわざは “石橋を叩いても渡らない” ほうであろう。

**1429. Quien muchas piedras mueve, en alguna se hiera.**

たくさんの石を動かしていれば

どれかで怪我することがある

- 危険な状況にたびたび身をさらせば、いつかは被害を被るというたとえ。
- 同義には, “Cántaro que va mucho a la fuente, alguna vez se rompe. 井戸にし

ばしば通う水がめは、いつかは割れる”（筆者の諺辞典，諺 212 を参照），“Tantas veces va el cántaro a la fuente, que alguna vez se rompe. 水瓶もあまりしばしば泉へ通うと、いつかは割れる”，“Tantas veces va el cántaro a la fuente, que quiebra el asa o la frente. 水瓶もあまりしばしば泉へ通うと、取っ手か、ふちが欠ける”，“El que carretea vuelca. 荷車を引く者は、いつかひっくり返る”など一連のことわざがある。

### 1430. Quien mucho abarca, poco aprieta.

たくさん抱えこむと しっかり握れない

- 欲ばってあれこれ同時に手をつけると、結局はどれもこれも満足に遂行できないというたとえ。コバルピマス（宝典）によると、しまいには全てが駄目になってしまうということ。
- イリバレン（格言の由来）によると；“容易に成し遂げることができないようなたくさんな事柄に着手すべきではないと忠告している格言で、ラテン語の諺<Qui duos lepores sequitur, neutrum capit. (El que a dos liebres persigue, se queda sin ninguna. 二兎を追う者は、一兎をも得ず)>と類義である。”また、この格言の由来についてイリバレンは、こう述べている；“自らの像を設置したローマ人 (Buffon) が、その足下にラテン語で碑文をこう刻んだ<Naturam amplectitur omnem. (Abraza toda la Naturaleza. 大自然をすっかり抱いて)>一人のユーモアのある男が、その碑文の後に<Quien mucho abarca, poco aprieta. たくさん抱えこむと、しっかり握れない>と付け加えた。そのことを聞いた像の建立者は、己自身の贅辞とそれに対する批判を削るように依頼したのである”
- 類義のことわざには、“El que dos liebres sigue, tal vez caza una; y muchas veces ninguna. 二兎を追う者は、一兎を得るかもしれない、しかし、たいていは一兎をも得ず”（筆者の諺辞典，諺 473 を参照），“El que mucho corre, pronto para. 速く走る者は、すぐにとまる”（同諺辞典，諺 488 を参照）などがある。
- 例題：セレスティーナ第 12 幕，カリストの従者二人がセレスティーナに分け前をよこせ、ひとり占めにするなど諺を使う，“... no lo perdamos todo por querer más de la razón que: <quien mucho abarca, poco suele apretar>. 理に合わぬ欲をだして、何もかも台なしにしないでこようや。沢山抱えこむ奴は、いつも尻抜けという

ことだからな。”(魔女セレスティナ, 大島正訳)

- 同義の日本の諺には“虻蜂取らず”, “頭でっかち尻つぼみ”, “竜頭蛇尾” などがある。はじめは張りきっていろいろなことをプランして着手するが, しまいには何もかも駄目になってしまうこと。

**1431. Quien mucho ofrece poco da.**

たくさん約束する者は ほとんどくれない

- 約束事をよくする人は, たいてい後で実行しないから, 信用するなと警告している。(スバルビィ 諺辞典)
- 類義の諺には “Ofrecer mucho, especie es de negar. たくさん申しでるのは, 一種の拒絶である” (筆者の諺辞典, 諺 1211 を参照), “Quien presto dice sí y promete, presto dice no y se escuece. すぐに ‘はい’ と約束する者は, すぐに ‘いいえ’ と言って気分を害す” (何か約束する前には, それを果たせるかどうかよく考える必要がある—バロス) などがある。

**1432. Quien no oye consejo, no llega a viejo.**

忠告を聞かぬ者は 長生きできない

- 自分より年を取っている者の経験とか知恵の伝授に従うようにおしえている。(バロス) 慎重で分別がある人の意見を聞くことを勧めている。(スバルビィ)
- 類義の諺には “Hazte viejo temprano y vivirás sano. 早く年寄りになりなさい, そうすれば健康に生きられるだろう” (筆者の諺辞典, 諺 666 を参照), “Si quieres llegar a viejo, guarda el aceite en el pellejo. 長生きしたかったら, つやつや肌を保ちなさい” などがある。
- 年寄りがおしえてくれることには, 素直に耳を貸しなさいということ。日本のことわざでも同様に “年寄りの言う事は聞くもの”, “年寄りの言った事は土に落ちない” など, 経験豊かな年寄りの意見は, 間違いがないと言っている。

**1433. Quien no puede andar, que corra.**

歩けなければ 走りなさい

- 窮地に陥っている者の上に, 更に悲しみとか労苦が重くのしかかる状況を指して言う。

(パロス)

- 同義の諺には “A la vieja que no puede andar, metella en el arenal. 歩けない老婆を砂地に入れなさい” (この諺の後に < dificultades a dificultades—苦境から苦境へ > を付け加えるとよく意味が分かる, また, metella は, meterla のこと), “La vieja que no puede andar, llevarla por el arenal. 歩けない老婆を砂地に連れていきなさい”, “Guardóse de la mosca y comiólo la araña. 蠅から逃れて, 蜘蛛に食べられる” (筆者の諺辞典, 諺 632 を参照), “Salió de Málaga y entró en Malagón. マラガを逃れてマラゴンに入る”, “No es bueno salir de un lodo y entrar en otro. 一災から逃れたのに, 二災に入るのは由々しいことだ” (同諺辞典, 諺 1084 を参照) などがある。
- こちらでも同様に, 災難は続いて起きやすいことを言う諺が多数あるが, その中でよく知られているのが, “一難去ってまた一難”, “一災起れば二災起る” であろう。

**1434. Quien no puede dar en el asno, da en la albarda.**

ロバを叩けない者は 鞍を叩く

- 侮辱した者に復讐できないので, 近くにいる者にその怒りをぶつける人をたとえて言う。(スバルビィ諺辞典) 気分を悪くさせた者に仕返しができないので, 身近にいる家族とか自分の持ちものに当たり散らす人を言う。(パロス諺集)
- 少し意味は違うが, 同じ “asno—ロバ” と “albarda—鞍” というペアを使った諺が次のようにある; “La culpa del asno no se ha de echarla a la albarda. ロバの罪は, 鞍のせいにするな” (自分が犯した罪をだれか他の者のせいにする—筆者の諺辞典, 諺 365 を参照) これは, 標題の諺の変形といえるだろう。

**1435. Quien no quita la gotera, hace casa entera.**

水漏れを直さぬと 家中水浸しになる

- すぐに小さいうちに悪いところを修繕しないで放っておくと, 大きくなって始末におえなくなるということ。(パロス諺集) 何にでも応用できることわざである。どんな災難にしろ病気にしろ, 小事のうちに早く適切な手を打てば, それほど大変にならずにすむが, そのままにしておけば, 深刻な事態にまで発展して, 後の対策が困難になる。小事だと軽く考えているとすぐに大事にまでいたってしまうというたとえ。(筆者)

- 同義のことわざには“千丈の堤も蟻の一穴より”（ささいなこと、わずかな手落ちや油断から、大事にいたってしまうことのたとえ—岩波ことわざ辞典），“千丈の堤も蟻の穴より崩る”がある。

**1436. Quien no se alaba, de ruín se muere.**

おのれに満足せぬ者に 惨めな死

- 豊かな人生を送るためには、自分の仕事を大切に思うことである。（バロス諺集）生きるということは、何らかの仕事に従事することであるから、なるだけ好きな仕事を選び、それに誇りをもって邁進することを勧めている。（筆者）

**1437. Quien no se arriesga no gana nada.**

危険を冒さぬ者は 何にも得られぬ

- まさに“虎穴に入らずんば虎子を得ず”（後漢書）と同義のことわざで、冒険をしなければ大きな目的は達成できないということ。
- 同義のことわざには“Quien no se aventura, no pasa la mar, y el que se aventura, pierde caballo y mula. 危険を冒さぬ者は海を渡らない、危険を冒す者は馬とラバを失う”（魅力的な目的を達成するためには、しばしば危険を冒す必要がある—スバルビィ諺辞典），“La audacia ayuda a la fortuna. 大胆さが幸運をひきつける”，“Quien no arriesca, no aprisca. 危険を冒さぬ者は、家畜を小屋に入れられぬ”，“Cuanto más moros, más ganancia, o a más moros, más ganancia. モーロ人が、多ければ多いほど戦利品も多くなる”（筆者の諺辞典、諺 354 を参照）などがある。また、反義には“El que ama el peligro, perecerá en él. 危険を求むる者は、危険に死す”（同諺辞典、諺 465 を参照）がある。
- 見出しの和訳とまるっきり同じ日本のことわざがある。このように表現も意味も全く同じことわざは、極めて珍しい。その他の同義のことわざには“枝先に行かねば熟柿は食えぬ”，“危ない橋も一度は渡れ”などがある。

**1438. Quien no te conozca, que te compre.**

知らない者に 買ってもらえ

- 誰かの欠点を強調して言いたい時に使う。比喩的には、馬とかロバのような家畜に何

かきずがあるような場合、獣医と口裏を合わせてそのきずを隠して売ることをいう。  
(イリバレン) 悪意とか下心を隠している人をいう。(パロス)

- 一 イリバレン (格言の由来) によると、スペインの文豪の一人であるケベード (Francisco de Quevedo, 1580-1645) が書いた“La vista de los chistes—小話の眺望”にこの表現が使われている。ケベードは、薬剤師が自身で調合した薬に変な名前をつけることを批判しながら、次のように書いている；“Y como han oído decir que quien no te conoce, que te compre, ... きみを知らない者が、きみを買ってくれるようにと世間でも言われているように、豆とは分からないように隠して病人にそれを買わせるのである。”

- 一 同様にイリバレンは、見出しの格言の由来として二つの逸話を紹介している；

1) 三人の貧しい学生が、市が開催されているある村に着いた。ロバが水車から水を引き出している農園の傍を通った時に、一人の学生がどうやって楽しもうかと尋ねた。別の学生がああ分かっていると答えた。自分は水車のところに行くから、君たちは市であのロバを売ってくれと言い、その通りにした。ロバが行ってしまってから、近くで作業をしていた農園主が、鈴の音が聞こえてこないのをおかしいと思い水車に近づいて驚いたことには、いつのまにかロバが学生に変わってしまっていた。これはどうしたことかと叫んでいる農園主に学生がこう説明した。自分はたちの悪い魔女にロバに変えられていたが、期限がきて元の姿に戻ったのであると。絶望した農園主は、すぐに市に別のロバを買いに出かけた。そこでジブシーが見せてくれたロバが、以前の自分のロバであることが一目見ただけで分かったのでこう叫んだ<Quien no te conozca, que te compre. お前を知らない奴が、お前を買え>。

2) カルモナの村に住んでいたおじさんは、善人で太っていて一頭のロバを持っていた。ロバに綱をつけて畑を行ったり来たりしていた。ある日、二人の学生がそのロバを盗もうと相談し、一人が面繫から綱をはずしてロバを持って行ってしまった。あとの一人は手で綱をもちながらおじさんの後について歩いた。後ろをふり返ったおじさんは、そこに学生がいたのでびっくりした。そこで学生は次のように説明した。自分は父親に対してとても悪い子だったので、父の呪文でロバになってしまったからもう四年になるが、その期限も切れて、元の人間に戻ることができた。おじさんは、その学生に同情し、早く帰ってお父さんと仲直りしなさいと言い、学生を帰らせた。時が過ぎた或る日のこと、おじさんが市に出かけた。ジブシーが売ろうとしているロバが、

以前の彼のロバだと分かったおじさんは、また、あの学生が悪さをして父親から再びロバに変えられてしまったのだと思った。そこでロバに近づき、そっとロバの耳に見出しの格言として残った言葉をつぶやいた。<Quien no te conozca, que te compre. きみを知らない者に買ってもらうように>

**1439. Quien pesca un pez, pescador es.**

一匹の魚を釣れば 漁師になる

- 何か一つのことを成し遂げただけで、もう自分はマエストロだと自慢する人を皮肉をこめて言う。(パロス)
- 意味は少し違うが、ニュアンス的には“何でも来いに名人なし”とか“口自慢の仕事下手”などが類似している。本当に物事に精通している者は、その知識を軽々しく人に話したりしないものであるが、よく物事を知らない者とか、生半可な知識を持っている者に限って、知ったかぶりをしては人におおげさにひけらかす意の“知る者は言わず言う者は知らず”(老子)が、見出しのことわざの言わんとすることを言い表している。

**1440. Quien piedra al alto echa, cáele en la cabeza.**

上に高く石を投げれば 頭の上に落ちてくる

- 悪い行いをすれば、その報いが自分に返ってくるということで“身から出た錆”とか“自業自得”と同義。
- コレアス諺集には、次の異表現が収載されている；“Quien piedra arriba echa, tórnales o cáele en la cabeza. 上に向かって石を投げれば、頭の上に返ってくる、或は、頭の上に落ちてくる”(ゴート族の人が言う次の諺と類義である；“Quien al cielo tira flechas, vuélvenle a la cabeza. 天に向かって矢を放てば、頭の上に戻ってくる, Quien al cielo el dardo tira, vuélvesele encima. 槍を天に向かって投げれば、自分の上に戻ってくる” — コレアス)
- 類義の諺には“Es un loco quien su mal achaca a otro. 身から出た錆び”(筆者の諺辞典、諺 593 を参照)、“El mal que de tu boca sale, en tu seno se cae. 悪口が口から出ると、自分の懐に落ちてくる<天に唾す>”(同諺辞典、諺 810 を参照)、“El que al cielo escupe, en la cara le cae. 天に向かって唾を吐くと、顔にふりかかる”



などがある。

- 見出しの諺の源になっているのが次の旧約聖書の言葉である；“Al que tira al cielo una piedra, le cae en la cabeza, 上に向かって石を投げれば頭の上に落ちてくる (シラ書, 27-25), …El que hace un hoyo caerá en él y el que prepara una trampa quedará preso en ella. 落とし穴を掘る者は自分がそこに落ち込み, 罠をしかける者は自らそれにはまり込む。Al que hace el mal, éste le caerá encima. 悪事を働けばその報いがわが身に返って来る” (シラ書 27-26-28)
- 仏教のおしえである“因果応報”, “自業自得”も同様に悪事には悪の報いがあると言う。

#### 1441. Quien pies no tiene, coces promete.

足がないのに 足蹴を約束する

- 果たすつもりがない約束をする者を咎めている。(バロス)
- 類義の諺には“Ofrecer mucho, especie es de negar. たくさん申しでるのは, 一種の拒絶である”(筆者の諺辞典, 諺 1211を参照), “Quien mucho ofrece poco da. たくさん約束する者は, ほとんどくれない”(同諺辞典, 諺 1431を参照)などがある。
- 初めから申しでることをまもるつもりがないのに, 自分の欲するものを得るためには口からでまかせを言う人が世間には多い。男が女に結婚の口約束をする場合もあるし, 遺産の欲しい息子が親に面倒を見ると約束する場合もある。

#### 1442. Quien poco tiene, poco puede.

ほとんど持っていない者は ほとんど何も出来ない

- 金の力の強さを言う。(バロス)
- 次の一連の諺が見出しのことわざの真意を裏付けてくれるだろう；“El dinero todo lo puede y vence. 金は何でも出来るし, 何でも打ち負かす”, “El dinero hace al hombre entero. 金が完璧な人をつくる”, “El dinero hace bailar al perro. 金が犬を踊らせる”, “El dinero hace lo malo bueno. 金は悪いこともよいと見なす”, “Dineros son calidad. 金は威光の元”, “Más da el duro que desnudo. ケチのほうが, 丸裸よりくれる”(筆者の諺辞典, 諺 836を参照)など。

- こちらでも同様に、何をするにも、最初に必要なのは金であり、それがなければ仕事もできないと謳う“先立つ物は金”，“人間万事金の世の中”がある，また，その他の同義のことわざには“知らぬ道も銭が教える”，“地獄の沙汰も金次第”，“成るも成らぬも金次第”などがあり，この世は金さえあれば思うままにどうにでもなるとおしえている。

**1443. Quien por el mundo quiere andar salvo, ha menester ojos de halcón y orejas de asno, cara de simio, boca de puerco, espaldas de camello y piernas de ciervo.**

世の中を安全に渡りたければ 鷹の眼 ロバの耳 猿の顔 豚の口  
ラクダの肩 そして 鹿の脚がなければならぬ

- 豚の口は、何でも食べられるように、胃は何でも飲み込むことが出来るように、そしてラクダの肩とは、どんな言葉も行為も辛抱できるように、その他のことについては明白であろう。(コレアス諺集)
- 鷹の眼のように鋭く人間の、或は物事の実体を見抜けること、ロバの耳のように大きく、何でも聞き分けられること、猿の顔のように敵を威嚇できること、ラクダの肩のように強健であらゆる労苦に耐えられること、そして鹿の脚のように敏捷に動きまわること、或は、必要とあらば敵から逃げおおせることができることなどが、この危険に満ちみちた世の中を安全に生きていくために必要であるといっているのであろうか。

**1444. Quien pregunta lo que no debe, le responden lo que no quiere.**

訊いてはいけない事を訊くと  
聞きたくない返事が 返ってくる

- “El que dice lo que no debe, oye lo que no quiere. 言うてはいけない事を言う者は、聞きたくない事が聞こえる”と同義の諺である。(パロス)
- コレアス諺集には、異表現の“Quien dice/habla lo que no debe, le responden lo que no quiere. 言うてはいけない事を言うて、聞きたくない返事が返ってくる”，“Quien pregunta lo que no debería, oye lo que no querría. 訊いてはいけない事を訊くと、聞きたくない事が聞こえる”がある。

- 類義の諺には “El que más habla es el que más tiene por qué callar. 黙っていなければならぬ者ほど、よく喋る” (欠点を持っている人ほど、他人のあらさがしをし、あげつらう—筆者の諺辞典, 諺 486 を参照), “El que escucha su mal oye. 耳をそばだてる者は、自分の悪口が聞こえる”, “Ese oye sus defectos, que no calla los ajenos. 他人の悪口言う者は、自分の悪口が聞こえる” (筆者の諺辞典, 諺 584 を参照), “Oye sus defectos quien no calla los ajenos. 他人の欠点をあげつらう者は、自分の欠点を聞くようになる” (同諺辞典, 諺 1227 を参照), “Oye y calla, vivirás vida holgada. 聞きなさい, でも黙っていなさい, そうすれば平安に生きられますよ” などがある。

**1445. Quien presto da, da dos veces.**

すぐ上げるは 倍上げる

- 頼まれたものをすぐあげる, 或は, 頼まれる前にあげると, 倍の効果があり, とて感謝される。
- 同義の諺には “El que da primero, da dos veces. すぐくれるは, 倍くれる (先んずれば人を刺す)” (攻撃される前に攻撃するとずっと有利であるという意味もある—筆者の諺辞典, 諺 469 を参照), “A un diestro, un presto. 早い者は, 技ある者に勝る” (時には, 腕の立つ者より, 仕事の早いほうが効果がある—同諺辞典, 諺 106 を参照) などがある。
- こちらの類義のことわざには “早いが勝ち”, “機先を制する”, “先手必勝” などがある。

**1446. Quien presto se determina, dúrale el arrepentir.**

すぐ決める者には 後悔がつかまとう

- 何かに取りかかる前によく考えないと, それによってもたらされる結果にいやでも従わなければならない。(パロス諺集)
- コレアス諺集には異表現の “Quien presto se determina, resuelve y concede, después tarde se arrepiente. すぐ決心する者は, 決定し, 同意し, 後になってから後悔しても遅い” (何故ならば, 約束した言葉が強制され, 被害を被った後で後悔しても遅いから—コレアス) が見られる, また, 同諺集には, 次のような類義のことわざ

ざが収載されている；“Quien presto promete, tarde lo cumple y presto se arrepiente. すぐ約束する者は、後になってそれを果たし、すぐに後悔する”，“Quien presto dice sí y promete, presto dice no y se escuece. すぐに“はい”と約束する者は、すぐに“いいえ”と言って気分を害す”など。パロス諺集にも、次の類義の諺がみられる；“Quien todo lo da, todo lo niega. 全てを申しでる者は、全てを断わる”（たやすく約束するような者は、後になってからその言葉を果たすことができない—パロス），“La que presto empieza, presto lo deja. すぐ始めた者が、すぐやめる”（何か事を始める前には、よく考えることが必要である—筆者の諺辞典、諺730を参照）

**1447. Quien quiera peces, que se moje el culo.**

魚を獲りたければ 尻を濡らせ

- 何事でも手に入れたければ、それを成就させるために努力したり、犠牲を払わなければならない。（パロス諺集）
- 同諺集のことわざには“Bragas duchas comen truchas. 熟練したズボンが、鱒を取る”（筆者の諺辞典、諺150を参照），“No se toman truchas a bragas enjutas. 乾いたズボンでは、鱒を取れない”などがある。
- 望みを達成させるためには、怠けていては駄目で、日々精進し、努力しなければならないということであろう。

**1448. Quien recuerda el can ya dormido, vende paz y compra ruido.**

寝た犬を起こす

- 日本のことわざの“寝た子を起こす”と表現も類似しているし、意味も同じで、せっかく収まっている物事とか喧嘩を軽率にもまた蒸し返して問題を引き起こすことをたとえている。スペインの諺の直訳は“寝た犬を起こして、平和を売り、騒動を買う”でとても長い。
- コバルビアス（宝典）によると、“recordar”は、寝ているものを起こす、或は、思い起こさせる”
- 同義の日本のことわざは次のように多数ある；“寝た／寝る子を起こす”，“泣かぬ子を泣かす”，“知恵ない神に知恵つける”，“平地に波瀾を起こす”，“日向で埃を立てる”

など、たとえが豊富で面白い。

**1449. Quien ruin es en su casa, ruin es en la plaza.**

内で下種なら 外でも下種

- 人の本性というものは、家の中でも、外に出ても同じように出るものである。(パロス)
- コレアス諺集には、次のように多数の異表現が見られる；“Quien ruin es en Roda, ruin es en Ronda. ロードで下種なら、ロンダでも下種”，“Quien ruin es en Roma, ruin es en Carmona. ローマで下種なら、カルモナでも下種”，“Quien ruin es en su tierra, ruin es fuera de ella, o en la ajena. 故郷で下種なら、異郷でも下種”，“Quien ruin es en su villa, ruin es en Sevilla. 自分の村で下種なら、セビーリャでも下種” どこに行っても人というものは、本性を隠すことができずに言動に現れるものであるという意。
- “Ruin” とは，“小人な、卑劣な、品性が下劣な、教養のない、悪癖のある, etc.”
- 人間の品性とか本性は家の中でも、外でも、どこにいようと変わらないが、人というものは、どこにいるか、誰と一緒にいるかによっていろいろな顔を見せるものである。そういう人の態度、振る舞い、言動などのあからさまな相違を謳っているのが次の日本の一連のことわざである；“内閻魔の外恵比寿”（家の中では恐れ仏頂面をしているが、外では愛想がよく、にこにこしている—故事ことわざ活用辞典），“内で蛤外で蜆”（家の中では大きな顔をしているが、外に出ると小さくなっている—同辞典），“内広がりの外すぼり”（家の中では威勢がいいが、外に出ると意気地がない”（同辞典），“内弁慶の外地蔵”（家の中では弁慶のように威張っているが、外に出るとおとなしく小さくなってしまう—同辞典）など、これらの諺は日本人の特徴をとともよく言いあてている。スペイン人には、あまりこういう内、外での振るまいの相違は見られない。だから、今までのところは、それを意味するスペインの諺が見当たらないのである。

**1450. Quien siembra vientos recoge tempestades.**

風を蒔く者は 嵐を刈り取る

- 他者に対する振るまいが良くなかったり、能力ある人を引き立てなかったりなど、悪

いことばかりしていると、他者の憎しみ、悪意を生みだすばかりである。(パロス)  
悪行をすれば、その報いを受けるということ。(筆者)

- この諺の源になっているのが、旧約聖書の中の次の言葉である；“Sembrarán viento y recogerán torbellinos para su ruina: no habrá allí espiga que se mantenga en pie, y sus granos no darán harina: y si la dieran, se la comerán los extraños. 彼らは風の中で蒔き嵐の中で刈り取る。芽が伸びても、穂が出ず、小麦粉を作ることができない。作ったとしても、他国の人々が食い尽くす。”(ホセア書、8-7)
- 良いことでも、悪いことでも、いつでもそれを行った者に、それ相応の結果が待っているという意では、“Quien bien siembra, bien coge. よい種を蒔く者は、良い収穫を得る”(いつも良い行いをしていれば いいことがある—パロス諺集)、“El que siembra alguna virtud, coge fama. 美德を蒔く者は、名声を刈り取る”(筆者の諺辞典、諺505を参照)、“El que hace lo que no debe, sucédele lo que no cree. してはいけないことをする者には、思ってもいなかったような事が起こるだろう”などがあり、また、どんなことであれ、それを行う本人が、その結果の責任を負わなければならないという意では、“Como sembrares, cogerás. 種を蒔いたように、刈りとりなさい”(同諺辞典、諺263を参照)、“El que siembra recoge. 蒔いた者が刈り取る”などの諺がある。
- 善行でも悪行でも“汝に出るものは汝に返る”が上記の一連のことわざにぴったり一致している。

#### 1451. Quien tarde casa, mal casa.

遅い結婚は 不作の結婚

- 全ての点についてそう言える。(パロス諺集) 何故なら、自由を楽しんだ者にとって は束縛されるのは辛いから。束縛に慣れるには、子馬とか若牛を慣らすように、なるだけ若い年齢で結婚するのがいい。(コレアス諺集)
- 結婚についてこういう諺もある、“Quien se casa por amores, ha de vivir con dolores. 惚れた腫れたで結婚すると、苦痛が待っている”(惚れて結婚した男は、女の気質を考慮しないので—パロス) この諺にぴったりな日本のことわざには“惚れた腫れたは当座のうち”がある。惚れたの惚れられたのと言っているのは、新婚当座のうちだけであるということ。

**1452. Quien tarde se levanta, todo el día trota.**

朝寝坊した者は 一日中急いでいる

- “Al que madruga, Dios le ayuda. 早起きする者を神は助ける”と相違して遅く起きる者を非難している。寝坊すれば、時間が足りないので全てを急いでしないと間に合わない。一日中、忙しく駆けずり回っているような気持ちになるのである。
- 同義には、“El que se levanta tarde, ni oye misa ni come carne. 朝寝坊はミサも聞かず、肉も食わず”がある、また、早起きの功德を表わしたのには“El que primero se levanta, primero se calza. いちばん早く起きた者が、いちばん早く靴を履く”（最も熱心な者が、求めるものを手に入れる一筆者の諺辞典、諺 499 を参照）
- 日本にも朝寝坊を戒めていることわざがいくつかある；“朝寝朝酒は貧乏のもと”，“朝寝八石の損”，“朝寝昼寝は貧乏のもと”など。

**1453. Quien te cubre, te descubre.**

お里がしれる

- 直訳は“着ているもので、素性がばれる”成り上がりものは、いくら衣装に金をかけて、贅沢に装っていても洗練されていないので、すぐに素性が知れてしまうということ。
- スバルビィ（諺辞典）の解釈によると、見出しのことわざの意味は次のように二つある；“人は、誰に秘密を打ち明けていか注意しなければならない、というのも秘密を守れると威張って言う人に限って真っ先にばらすからである、また、人が、その人物にふさわしくない富とか衣装を持っている場合は、何かその人物が不正な行為をしたのではないかと調べられる理由となる。”始めの解釈に対しては、見出しの訳は当てはまらないので、“あなたをかばう者が、あばく”と訳したほうがいい。“cubrir”には“覆う、覆い隠す、かばう、保護する”などの意味がある。
- 反義のことわざには“El buen traje encubre el mal linaje. 立派な衣装は、お里を隠す”（筆者の諺辞典、諺 168 を参照）がある、また、時には貧乏を隠してくれるものもある“Botas y gabán esconden mucho mal. ブーツとコートは、貧を隠す”（同辞典、諺 149 を参照）
- 例題：ドン・キホーテ第二部5章、島の太守になったら娘マリ・サンチャを立派なと

ころへ嫁がせるというサンチョに反対して妻のテレサがびったり嵌まった諺で言い返す，“<i>¡Quien te cubre, te descubre!> Por el pobre todos pasan los ojos como de corrida, y en el rico los detienen; y si el tal rico fué un tiempo pobre, allí es el murmurar y el maldecir,... <なんじを隠すものなんじをあらわす>とあるのだよ。貧乏人には、だれでも、目をすうっと通すだけだけど、金持ちにはじっと留めるだ。そして、その金持ちにも貧乏人だった時があれば、からなず陰口と雑言でね。”(続編一、永田寛定訳)

- こちらの同義のことわざには、“猿に冠”，“猿に烏帽子”などがある，見かけは立派に飾っても，内面が卑しい者をあざけてという言葉。反義のことわざには“馬子にも衣装”(どんな人間でも，身なりを整えれば立派に見える)，“鬼瓦にも化粧”などがある。

**1454. Quien te da un hueso, no te querrá ver muerto.**

骨の一片を上げるのは

おまえが死ぬのを見たくないから

- わずかでも他者を援助するのは，好意を持っているしるしである。(パロス)
- スバルビィ諺辞典には，異表現で“Quien te da un hueso no te quiere ver muerto. 骨の一片を上げるのは，おまえが死ぬのを見たくないから”(たとえどんなに少なくとも，また，上等なものでなくとも，持っているものを分け与えてくれるのは，その相手に少なからぬ愛情を抱いているから—スバルビィ)が見られる。
- 例題：ドン・キホーテ第二部 50 章，公爵夫人が，サンチョの妻テレサにおみやげといっしょに手紙を小姓に遣わした，おみやげをあげるのは“...; pero quien te da el hueso, no te querría ver muerto: tiempo vendrá en que nos conozcamos y nos comuniquemos, ... ことわざにも申すごとく<骨のひとつもくれよう者は，そなたに死ねとは願わぬ者ぞ>いずれお目もじいたし，お話どうかがい申すときも，...”(続編三，高橋正武訳)注：<骨のひとつも...>犬かなんぞに物を投げ与えたり，死の語を入れたのは，公爵夫人のふざけであり，原文では，さらに相手に即した語形を使ったりして，おもしろくしている—高橋正武注訳



**1455. Quien tiempo tiene y tiempo atiende, tiempo viene que se arrepiente.**

好機をつかんでいるのに もっといい時をと待つ者に  
後悔の時が襲う

- もっと良いチャンスが来るかもしれないという期待で、目の前にやって来た好機を失うなどと警告している。(スバルビィ)
- コレアス諺集には、異表現で “Quien tiempo tiene y tiempo espera, tiempo viene que desespera ; o tiempo viene que diablo le lleva. 好機をつかんでいるのに、もっといい時をと待つ者に、絶望の時が襲う；或は、悪魔がやって来て連れ去ってしまう” が収載されている。
- 類義のことわざには “Esperanza larga aflige el corazón y el alma. まちくたびれた期待は、心も魂もくたくたにする” (筆者の諺辞典, 諺 589 を参照), “Esperanza es fruta de necios. 期待は愚者の果実”, “Quien espera, desespera. 待ち続ける者は、絶望する” (同諺辞典, 諺 1403 を参照) などがある。
- 例題：セレスティーナ第9幕, 若いころに無駄に失った時間を、いま悔やんでいると嘆くセレスティーナ, “Gozad vuestras frescas mocedades, que quien tiempo tiene y mejor le espera, tiempo viene que se arrepiente ; お前さんがたは、そのびちびちした若さを楽しみなよ。好機をつかんでいても、もっといい時をと、待っている者は、悔やまれる時が来るもんだからね。” (魔女セレスティナ, 大島正訳)

**1456. Quien tiene buen asiento, no haga movimiento.**

いい席を持っているなら 動くな

- もしそこから離れると、誰かにとられてしまうから。(バロス)
- 同義のことわざには “Quien fue a Sevilla perdió su silla. セビーリャに行ったら、席がなくなっていた” (自分から望んで職務を離れて帰ってきたら、すでに誰かがそれに就いていた—筆者の諺辞典, 諺 1404 を参照) がある。

**1457. Quien tiene el estómago lleno, dice: ayunemos.**

満腹している者が 絶食しようと言う

- 自分では実行する必要がない時に忠告するのはとても容易いことである。(パロス)
- 同義の諺には, “A buen salvo está el que repica. 警鐘ならず者に, 火の粉はかからぬ”(自分の身に火の粉がかからなければ, 何とでも忠告できる—筆者の諺辞典, 諺4を参照), “Del dicho al hecho hay gran trecho. 言うことと, 行うことには, 大きなへだたりがある”(同諺辞典, 諺391を参照), “No entra en misa la campana y a todos llama. 鐘はミサに加わらないが, 皆に呼びかける”(良い忠告は与えるが, それを手本に示さないで説教だけですます), “Más fácil hablar que obrar. 言うは行うより易し”, “Más fácil recetar que curar. 処方するは治療するより易し”, “No es lo mismo predicar que dar trigo. 説教するのと小麦を上げるのは, 同じではない”(忠告するほうが, 忠告したことを実行するよりずっとやさしい—筆者の諺辞典, 諺1089を参照)”など多数ある。
- 同義の日本の諺には“高見の見物”, “対岸の火事”, “山門から喧嘩見る”などがある。

**1458. Quien tiene ganas de bailar, sin son bailará.**

踊りたくて うずうずしている者は  
音楽なしでも 踊る

- ある事を熱望する者は, どんなことがあってもそれを得るための努力をするということ。(パロス)
- 類義のことわざには“Quien tiene buenas ganas, poco apetito le basta. 願望の強い者は, 少しの食欲で充分”がある。
- 東洋の類義のことわざには“志ある者は事ついに成る”(後漢書, しっかりした志をもっている人は, どのような事でも必ずいつかは成功する—故事ことわざ活用辞典), “念力岩をも通す”などがある。

**1459. Quien tiene hijo varón, no dé voces al ladrón.**

息子がある親は 泥棒と叫ぶな

- 子供を持つ親は, 他人の息子が犯す過失に対しては寛容でなければならない。あまり

酷く咎めるのはよくない、何故ならば、いつ自分のところの子供が同じようなことをするか分からないから。(パロス諺集)

- コレアスは、次のように解釈している；“泥棒が他人だと考えて叫んでも、まだ本当は、自分の息子かどうか分からないから。もしかしたら、遊ぶ金欲しさに夜分、息子が両親のものを盗んでいるのかもしれない。盗みを感じとった親が外部のものだと思って叫んだら息子だったということも起こりえる。駆けつけた隣人がそこにいれば、息子は裁かれてしまう。”
- スバルビィ諺辞典には、異表現で“Quien tiene hijo varón, no llame a otro ladrón. 息子がある親は、よその息子を泥棒呼ばわりするな”(自分にも同じようなことが起こりうる可能性がある場合、他人の過失を非難すべきではない—スバルビィ)がある。
- 類義のことわざには“Quien tiene hija soltera, no diga de la ajena. 独身の娘がいる親は、よその独身娘について何も言うな”(われわれに起こるかもしれない事柄で他人をとがめるな—パロス諺集)，“El que tiene el tejado de vidrio, no tire piedras al de su vecino. 屋根をガラスでおおう者は、隣の屋根に石を投げるな”(他人から噂されるような弱みがある人は、他人のことをとやかく言うな—筆者の諺辞典、諺 509 を参照)がある。

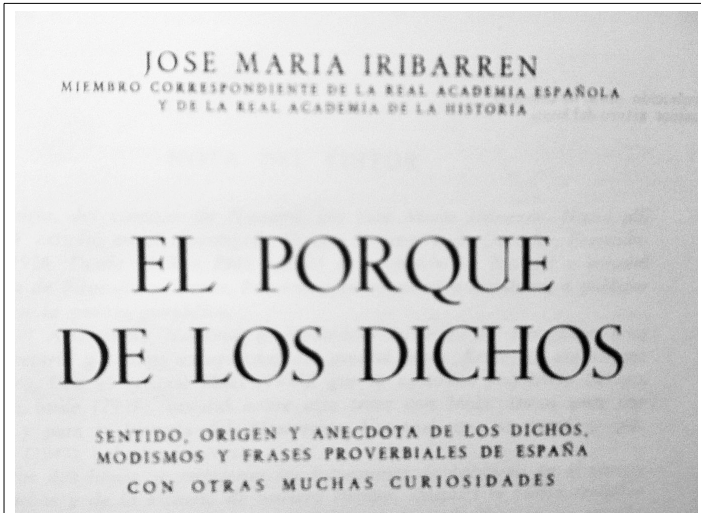
#### 1460. Quien tiene por qué callar, no ha de hablar.

黙っていなければならぬ者は 喋るな

- 欠点とか過失を持っている人ほど、他人の悪口を言うのが好きである。
- コレアス諺集には、異表現で“Quien tiene por qué callar, no hable, o no ha de hablar. 黙っていなければならぬ者は、喋るな、或は、喋ってはいけない”が見られる。
- 類義のことわざには“El que más habla es el que más tiene por qué callar. 黙っていなければならぬ者ほど、よく喋る”(欠点がある人ほど他人をあげつらう—筆者の諺辞典、諺 486 を参照)，“Ese oye sus defectos que no calla los ajenos. 他人の悪口言う者は、自分の悪口が聞こえる”(同諺辞典、諺 584 を参照)，“Oye sus defectos quien no calla los ajenos. 他人の欠点をあげつらう者は、自分の欠点を聞くようになる”(同諺辞典、諺 1227 を参照)，“Quien pregunta lo que no debe, le responden lo que no quiere. 訊いてはいけない事を訊くと、聞きたくない返事が返っ

てくる”（同諺辞典，諺 1444を参照）などがある。次のことわざは，よく聞いて黙っている人，慎重である人を賞賛している；“Al buen callar llaman Sancho. かしこい沈黙をサンチョと呼ぶ”（話し方に控えめである事を求めている一同諺辞典，諺 47を参照），“Oye y calla, vivirás vida holgada. 聞きなさい，でも黙っていなさい，そうすれば平安に生きられますよ”

- 旧約聖書では，いたるところで次のような悪口を言う人，軽卒によく喋る人をとがめている；“... es de necios divulgar chismes. El que mucho habla, mucho yerra; callar a tiempo es de sabios. 愚か者は悪口を言う。口数が多ければ罪は避けえない。唇を制すれば成功する。（箴言 10-18-20）“Cuidar las palabras es cuidarse uno mismo. ; el que habla mucho se arruina solo. 自分の口を警戒する者は命を守る。いたずらに唇を開く者は滅びる。”（箴言 13-3-4）“Al que habla sin ton ni son hay que temerle, pues en su boca, hasta una profecía se hace odiosa. 口数の多い者は，町中で忌み嫌われ，口の軽い者は，その言葉によって憎まれる。（シラ書 9-18）
- 日本の諺でも“口は禍の門”とか“伶俐なる頭にはとじたる口あり”などと言って口数が多い人を戒めている。



JOSE MARIA IRIBARREN. Aguilar s.a. de ediciones 1955, cuarta edición 1974.